

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

札幌国際大学

短期大学部

令和5年3月

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	10
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	15
III	総合評価	20
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	20
V	現況基礎データ一覧	21

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：札幌国際大学短期大学部 幼児教育保育学科

(2) 所在地：北海道札幌市清田区清田4条1丁目4-1

(3) 教職課程履修学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数：札幌国際大学短期大学部 132名／短大全体228名

幼児教育保育学科 132名／学科全体139名

教員数：教職課程に関する科目担当 10名／短大全体19名

2 特色

令和元(2019)年に開学50周年を迎えた札幌国際大学短期大学部の総合キャリア学科と幼児教育保育学科は共に「教育基本法」や「私立学校法」の法律に基づいた建学の精神を「建学の礎」という名称で以下の三点に具現化している。

【建学の礎】

- ・真理を探ね、自由を愛し、自らを省みる自立した人間を育成する。
- ・理想を求め、明日の地域社会を開く創造性豊かな人間を育成する。
- ・日本人としての自覚と誇りを持ち、自らの責任において行動する国際人を育成する。

『教育基本法』第二条でも示されているように、国際社会の平和と発展に寄与する人材育成には、自国の伝統と文化の尊重と郷土愛の涵養が必要である。この礎には、地域に根ざしながらも他国の人々と価値を認め合える人間を育成するという理想が込められている。本学では、「三つの方針」(卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針)に「建学の礎」を明確に反映させるために、具体的な教育の指針となる「教育の基本的考え方」を定めている。

【教育の基本的考え方】

- ・個性を尊重し、多様な生き方に応える生涯学習を推進する。
- ・学ぶ楽しさや表現する喜びを通し、真理を探究する心と豊かな感性を養う。

- ・日本の歴史や文化を理解し、世界の動きに目を向け、すすんで社会に貢献する態度を養う。

歴史や文化の理解や国際社会の動向への関心は、それ自体が目的なのではなく、広い視野を持った社会貢献のための基盤である。したがって、歴史や文化、国際社会への学びから自らがすすんで社会貢献するための糸口を発見できる教育を求めている。

総合生活キャリア学科は、自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身に付けるとともに、自ら課題を見つけ解決する、多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を養成している。

幼児教育保育学科は、現代の保育に必要な理論や技術を見つけ解決する、共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を養成している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検

基準領域 1 教育課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

札幌国際大学短期大学部は「教育理念」を踏まえて、「専門知識・技能を活用する力」「コミュニケーション能力」「課題を発見し、解決する力」「多様性の理解と協働する力」「能動的に学び続ける力」「社会に貢献する姿勢」の各項目に関して6つの卒業認定・学位授与の方針を定め、教職員の共通理解のもと、これらの要件を達成できるように7つの教育課程編成・実施の方針に基づきカリキュラムを編成している。

◇6つの卒業認定・学位授与の方針（DP）

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

（DP1）各学科の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

【コミュニケーション能力】（主体性・多様性・協働性・思考力・表現力）

（DP2）資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力）

（DP3）現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（主体性・多様性・協働性・関心）

（DP4）他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（技能・主体性・思考力）

（DP5）自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

（DP6）地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

◇7つの教育課程編成・実施の方針（CP）

- ①高大接続の観点から、短大教育への円滑な移行を促すために、各学科に初年次教育科目を設定し、組織的な初年次教育の充実を図る。
- ②建学の礎(自由・自立・自省の精神)による人間形成を重んじ、学科の教育目的に応じて自主、自律、協同の精神修得のための科目を設定する。
- ③実地的な専門教育と職業教育を目的として、各専門分野の知識、技能修得のための科目を設定する。
- ④生活・社会・文化への貢献のために、学科の教育目的に応じて、修得した知識、技能を用いて諸課題の解決に資する科目を設定する。
- ⑤演習、実習、インターンシップ等を通じた実践的・体験的な学びを重視し、能動的・自主的な学修の充実を図る。
- ⑥キャリア形成の観点から、社会人基礎力修得のためのキャリア科目を設定し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度を育む。
- ⑦成績評価の公正さと透明性を確保するため、シラバスに記載する成績評価基準・方法等および学則、規程等に定める所定単位修得により学修成果を評価し、その客観性を担保するため、複層的な積み上げによる多面的・総合的な成績評価を実施する。

また、教員育成像を令和2年に以下のように策定した。

◇求める教員像

- ①子どもの安全を守るための適切な配慮ができる教員
- ②子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技能を身に付けている教員
- ③子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる教員
- ④保育者の社会的使命を自覚し、責任ある行動をとることができる教員
- ⑤教育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている教員
- ⑥地域の国際化を踏まえ、価値観の多様化を理解し、差別のない多文化共生の態度を身に付けている教員
- ⑦地域社会の重要性を理解し、保育者だけではなく地域社会に根ざした実践を構築

できる教員

⑧教育・保育現場における教育者同士の協力の必要性を理解し、教育者として求められる知識や技能を、自らの努力及び仲間との協同を通して向上させていける教員
新入生オリエンテーションをはじめ各科目では、この「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」「求める教員像」を踏まえて、教育課程教育の目的・目標を学生に周知している。

〔長所・特色〕

幼児教育保育学科では、現代の保育に必要な理論や技術を身に付け、共感的な感性と知性に支えられた、国際感覚と人間性が豊かな保育者を養成することを目的としており、学生が卒業までにこの目的を達成するための教育課程を下記に示す教育課程編成・実施の方針に基づき設定する。

- ①高大接続の観点から、短大教育への円滑な移行を促すため、初年次教育の充実を図る。
- ②2年間の学修により保育者として必要な基礎力を身に付けることを目的として、子どもの健やかな成長を支えるための科目、子どもへの教育をおこなうための科目、保護者を支援するための科目、社会人として必要な教養を身に付けるための科目を設定する。
- ③本学科の教育を特徴づけるため、学びの土台を育てる「子どもの遊び演習」、「ことばの力」や、学生の興味・関心をさらに高める「保育プロジェクト演習」、「表現課題演習(基礎)」などを設定する。
- ④理論、演習、実習のそれぞれの科目を適切に配置し有機的に連関させることを目的として、自分が学んでいる科目がどのような意味をもち、どのような到達目標があるのかを自覚できる「カリキュラム・ステップ」を設定し、科目を配置する。
- ⑤演習、実習、インターンシップ等を通じた実践的・体験的な学びを重視し、能動的・自主的な学修の充実を図る。
- ⑥キャリア形成の観点から、キャリア科目を体系的に設定し、社会的・職業的自立に

必要な能力・態度を育む。

- ⑦成績評価の公正さと透明性を確保するため、シラバスに記載する成績評価基準・方法等および学則、規程等に定める所定単位修得により学修成果を評価し、その客観性を担保するため、複層的な積み上げによる多面的・総合的な成績評価を実施する。
- ⑧地域社会の多文化化、国際化に対応し、様々な背景をもった人々との交流を図れるようにするため、英語力、コミュニケーション能力、多文化理解を促す科目を設定する。

本学科は、現代の保育に必要な理論や技術を身に付け、共感的な感性と知性に支えられた、国際感覚と人間性が豊かな保育者を養成することを目的とし、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を併修でき、また1年次から系統的な学修ができるよう編成されている。

〔取組上の課題〕

本学部では、令和3年度に札幌国際大学とともに「卒業認定・学位授与の方針」と「入学者受け入れの方針」を改訂した。今後もこれらの方針を踏まえ、学生のより一層充実した学修に向けて教職員で連携を図り取り組んでいきたいと考える。

＜根拠となる資料・データ等＞

- 1-1-1 札幌国際大学短期大学部自己点検・評価報告書
- 1-1-2 SAPPORO INTERNATIONAL UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE 2022
STUDY GUIDE
- 1-1-3 札幌国際大学短期大学部卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
(<http://www.siu.ac.jp/01sougou/83.html>)
- 1-1-4 札幌国際大学短期大学部教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
(<http://www.siu.ac.jp/01sougou/83.html>)

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学では、いわゆる「三つの方針」(卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針)を、「建学の礎」と「教育の基本的考え方」を上位概念として、短期大学部全体として「卒業認定・学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者受け入れの方針」を定めている。

「入学者受け入れの方針」では、実際的な専門教育と職業教育により、生活および社会に貢献して文化の向上に寄与することができる良き社会人を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受入れる。

◇入学者受け入れの方針 (AP・求める学生像)

(AP1) 本学での学修に必要な学力を有している人。【知識・技能】

(AP2) 自らの考えを持ち、他者と協働して学ぶ意欲を持つ人。【主体性・多様性・協働性】

(AP3) 広く社会の諸課題について問題意識を持ち、それを説明・表現できる人。【思考力・判断力・表現力】

(AP4) 希望する専攻分野に興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。【意欲・関心】

(AP5) 目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】

教育の効果を高めるためには、授業の質の向上が欠かせない。本学では、授業の質の向上のために、授業公開や授業改善に特化したFDを学科毎に定期的実施している。また、卓越した指導力で教育効果の高い授業を実践した教員に対しては、『札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部優秀授業実践教員表彰に関する規程』に基づき、優秀授業実践表彰を実施している。一方、学生からの授業評価が3.0未満(最高値5.0)だった教員に対しては、『札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部教員の授業改善に関する規程』に基づき、適切な指導の下で自己点検を実施することにより、教員自らが授業改善に主体的に取り組めるような仕組みがある。このように、教育の効果を高めるための授業の質の担保する仕組み

が年間を通して機能している。

教育の効果は、特定科目だけではなく、教育課程に基づく教育活動と本学の教育理念全体に裏打ちされた学生支援とが“両輪”となり醸成される。したがって、日々の教育活動や学生の生活状況について、適宜・的確に把握しておく必要がある。そのために本学では、学生をアドバイザー・グループという集団に分け、その集団毎にアドバイザー（指導担当教員）を配置している。アドバイザーは、それぞれの月例の学科会議において、学生の状況を共有すると共に、教育の効果の阻害要因となりやすい生活上の諸問題（友人関係、生活困窮、学習意欲の低下等）について、定期的に教員間で把握するよう努めている。さらに、学長は総合生活キャリア学科と幼児教育保育学科の両方の学科会議に適宜参加し、両学科の教育の効果の課題について必要に応じて関係する部・課・センター長へ指示や助言をしている。

〔長所・特色〕

本学では大切にされてきたフレーズがある。それは、「教えることに傾斜しない」というフレーズである。今日の「アクティブ・ラーニング」と軌を一にするこのフレーズは、本学の『静修短期大学 開学 20 周年記念誌』（平成元年）の中の「総合情報館の設立の意義」に初出する和野内崇弘前理事長による言葉であり、本学の教育の根幹を成す「自立」を目指す教育とは何かを問い続けるためのフレーズとして根付いている。「教えることに傾斜しない」というこのフレーズは、本学の教育の効果を高めるための教員側の教育の姿勢を端的に示しているだけでなく、学生側の学ぶ姿勢も包含している。したがって、このフレーズは、学長から教員に対して教授会や FD などを通じて語られるだけでなく、学生に対しても各種式典や入学生向けのガイダンス、『基本演習』などの授業の中で繰り返し語られている。また、「教えることに傾斜しない」というフレーズを象徴する授業（教育活動）として、幼児教育保育学科では、『表現課題演習（基礎・応用）』や『保育プロジェクト演習』がある。これらの授業では、学生の学びのファシリテーターや支援者として教員が学生に関わる姿が象徴的に現れている。

〔取組上の課題〕

教職課程教育を行う上での施設・設備の充実と活用については、令和の日本型学校教育を担い得る汎用的技術を習得するため、授業においてICTの活用を増進する取り組みが課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- 1－2－1 札幌国際大学短期大学部自己点検・評価報告書
- 1－2－2 札幌国際大学短期大学部教入学受入れの方針(カリキュラム・ポリシー)
(<http://www.siu.ac.jp/01sougou/83.html>)
- 1－2－3 札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部優秀授業実践教員表彰に関する規程
- 1－2－4 札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部教員の授業改善に関する規程
- 1－2－5 静修短期大学 開学 20 周年記念誌

II 基準領域 2 学生の確保

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

〔現状説明〕

幼児教育保育学科は、現代の保育に必要な理論や技術を身に付け、共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を養成するために、上述した「入学者受け入れの方針」のもとに学生を受け入れている。HP、『大学案内』等印刷媒体、各種説明会、高校内説明会、オープンキャンパス等を通じて、求める資質・能力を公開している。入試では、評価指標を定め、入学者の質確保を担保し、多様な選抜方法を設定している。また、合格者には入学前課題を課して、担当教員が個々へフィードバックし、学修意欲を維持・向上できるように大学教育への円滑な接続を図っている。幼児教育保育学科は、多くの学生が免許を取得し、幼稚園等へ就職することを踏まえると、「入学者受け入れの方針」が教職を担にふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準であり、上述した「卒業認定・学位授与の方針」や「教育課程編成・実施の方針」を鑑みたくえでも教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れていると言える。

〔長所・特色〕

「教育課程編成・実施の方針」に基づき、幼児教育保育学科では、教養教育についての考え方を次のようにしている。

- ・年間の学修により保育者として必要な基礎力を身に付けることを目的として、子どもの健やかな成長を支えるための科目、子どもへの教育をおこなうための科目、保護者を支援するための科目、社会人として必要な教養を身に付けるための科目を設定する。
- ・キャリア形成の観点から、キャリア科目を体系的に設定し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度を育む。

教養教育に関するこのような考え方の下、「学びの技法」「基本演習」「キャリア形成」「キャリア基礎演習」等の科目が設定されている。ここでは、「学びの技法」「基本演習」に触れる。

○学びの技法：アカデミックスキルの習得

・到達目標

- ①大学での学びを身に付ける。
- ②資料から適切な引用をして、論理的に文章を書くことができる。
- ③自分の考えを論理的に他者に伝えることができる。

・卒業認定・学位授与の方針との関連

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力）

（DP3）現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（技能・主体性・思考力）

（DP5）自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

○基本演習：基本的な知識や発表力の習得

・到達目標

大学生活に必要な基本的な知識を身につける。グループワークを通して、考え方の異なる人とも意見を交換し調整しながら進めることができる。

・卒業認定・学位授与の方針との関連

【コミュニケーション能力】（主体性・多様性・協働性・思考力・表現力）

（DP2）資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力）

（DP3）現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（主体性・多様性・協働性・関心）

（DP4）他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（技能・主体性・思考力）

(DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

〔取組上の課題〕

「基本演習」では保育者に必要となる協働性や能動性を高めながら、付属認定こども園を対象としたお店屋さんごっこなどの企画や運営を行った。他の科目の行事や実習時期との関連性や学生の意識等も考慮しながら、授業内容等をより学生の実態にあったものにしていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- 2-1-1 札幌国際大学短期大学部自己点検・評価報告書
- 2-1-2 札幌国際大学短期大学部教入学者受け入れの方針(カリキュラム・ポリシー)
(<http://www.siu.ac.jp/01sougou/83.html>)
- 2-1-3 札幌国際大学短期大学部教入学者受け入れの方針(カリキュラム・ポリシー)
(<http://www.siu.ac.jp/01sougou/83.html>)
- 2-1-4 札幌国際大学短期大学部卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
(<http://www.siu.ac.jp/01sougou/83.html>)
- 2-1-5 札幌国際大学短期大学部教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
(<http://www.siu.ac.jp/01sougou/83.html>)

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

「教育課程編成・実施の方針」に基づき、幼児教育保育学科では、「⑥キャリア形成の観点から、キャリア科目を体系的に設定し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度を育む。」ことを設定している。

〔長所・特色〕

「教育課程編成・実施の方針」における教養教育について、ここでは「キャリア形成」「キャリア基礎演習」の到達目標等に触れる。

○キャリア形成：キャリアとは何かを考え計画する力の習得

・到達目標

①自分が目指す社会人像・保育者像を具体的に描き、その実現に必要な自己課題を定めることができる。

②自分のライフプラン・キャリアプランを描き、目標を定めることができる。

・卒業認定・学位授与の方針との関連

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

(DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力）

(DP3) 現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（主体性・多様性・協働性・関心）

(DP4) 他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（技能・主体性・思考力）

(DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

○キャリア基礎演習：就職先に応じた自立した社会人のための教養の習得

・到達目標

社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解を深めるとともに、保育者としての専門性について理解を深めることを目標とする。

・卒業認定・学位授与の方針との関連

【コミュニケーション能力】（主体性・多様性・協働性・思考力・表現力）

(DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力）

(DP3) 現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（主体性・多様性・協働性・関心）

(DP4) 他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（技能・主体性・思考力）

(DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

(DP6) 地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

それぞれの科目において、学生の実態を把握し、また教員間で学生の情報を共有しながら、アドバイザーを窓口卒業後の進路について支援をしている。また、履歴書の書き方、面接練習など、本学の教員とキャリア支援センター職員が連携をして、学生の就職支援をしている。

〔取組上の課題〕

多様な学生の入学に伴い、授業の充実、入学制度の見直し、学習支援や生活支援の充実、キャリア支援の充実など、より一層の改善が求められている。全体として教育活動の改善を一つ一つ図るとともに、一人ひとりの学生について、その学生の課題を明確に捉えて、

アドバイザーを中心に一層支援していきたいと考える。

<根拠となる資料・データ等>

2-2-1 札幌国際大学短期大学部自己点検・評価報告書

2-2-1 「キャリア形成」「キャリア基礎演習」シラバス

II 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

令和4年度の入学生から新たに編成した教育課程を実施している。各学科等においては、コアカリキュラムに対応した教職課程カリキュラムを編成し、令和2年に本学で策定した教員育成像を踏まえている。また「教育課程編成・実施の方針」に基づき幼児教育保育学科では、「④理論、演習、実習のそれぞれの科目を適切に配置し有機的に連関させることを目的として、自分が学んでいる科目がどのような意味をもち、どのような到達目標があるのかを自覚できるカリキュラム・ステップを設定し、科目を配置する。」としている。「カリキュラム・ステップ」とは、社会からの期待に応える人材育成と学生の資質の変化を背景に、学科独自の教育内容を加えた新しい教育課程を通してどのような学習成果が得られるかを、階段状に可視化する概念である。

〔長所・特色〕

上述した、「カリキュラム・ステップ」の具体を以下にあげる。

「カリキュラム・ステップ」

ステップ 0「学びへの期待を高める」

ステップ 1「保育という仕事を知る」

ステップ 2「子どもを知る」

ステップ 3「保育の方法を知る」

ステップ 4「保育者支援を知る」

ステップ 5「保育者としての仕上げをする」

この「カリキュラム・ステップ」に基づき、学習成果から導かれる到達度を明記し、科目間の有機的な連関の中で教育目的・目標を達成している。各ステップにおいてアクティブラーニング等を通して、保育者としての専門性の育成に努めている。

「教育課程編成・実施の方針」に基づき、ここでは「教職実践演習」の到達目標等に触れる。

○教職実践演習：保育者として指導方法等の自己課題を改善する方法の習得

・到達目標

幼稚園、保育所、認定こども園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び、過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

・卒業認定・学位授与の方針との関連

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

(DP1) 各学科の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

【コミュニケーション能力】（主体性・多様性・協働性・思考力・表現力）

(DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力）

(DP3) 現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（主体性・多様性・協働性・関心）

(DP4) 他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

保育者として実践的な指導を可能とする資質能力が形成されているかどうかについて、模擬保育等の演習を通して確かなものとなるよう取り組んでいる。また、各学期末には授業評価とともに「キャリアパスノート」とする履修カルテを含む学修の振り返りを行い、自己の強みや課題に向き合い、学生が向上的に変容できるようにしている。

【取組上の課題】

幼児教育保育学科では、平成31年度に教育職員免許法・同施行規則の改正に伴う再課程認定と、保育士養成施設の修業教科科目及び単位数と履修方法の変更が全国的に実施されたことにより平成28年度から実施してきた教育課程から、科目の新設や名称変更、期別配置の一部が変更された。そのために「カリキュラム・ステップ」を見直し、新たな教

育課程を編成したところである。今後も科目間のより一層の有機的なつながりを高めていきたいと考える。また、先述したように令和の日本型学校教育を担い得る汎用的技術を習得するため、授業においてICTの活用を増進する取り組みも一層促進していきたいと考える。

<根拠となる資料・データ等>

3-1-1 札幌国際大学短期大学部自己点検・評価報告書

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

「教育課程編成・実施の方針」に基づき、幼児教育保育学科では、「⑤演習、実習、インターンシップ等を通じた実践的・体験的な学びを重視し、能動的・自主的な学修の充実を図る。」ことを設定している。

〔長所・特色〕

本学科では、1年次か付属認定子ども園での実習をはじめ、保育や療養施設での実習、また子ども向けのイベントの企画などを実施する科目がある。学生の実践的そして体験的な学びと講義等を通しての学びが互いに関連しながら、学生の実践的指導力を育成している。

地域との連携に関しては、付属認定こども園との連携をはじめ、科目やゼミ活動の中で地域と連携した実践的・体験的な学びが実施されている。また、本学科では、地域の学生の就職先に教員が訪問し、就労状況や本学の人材育成に関する意見また卒業生からの進路支援に対する要望や卒業後になってから感じたことなどを聴取している。キャリア支援センターと本学の教員間で内容を検討し、その分析結果を学会会議等において教員間で共有をしている。

〔取り組み上の課題〕

先述したように今年度は新カリキュラムの施行となる。付属認定こども園や他の地域の関連施設等との連携を一層深めながら、カリキュラムが充実していくよう努めていきたいと考える。

<根拠となる資料・データ等>

3-2-1 札幌国際大学短期大学部自己点検・評価報告書

Ⅲ. 総合評価

札幌国際大学短期大学部は「教育理念」を踏まえて、卒業認定・学位授与の方針を定め、これらの要件を達成できるように教育課程編成・実施の方針に基づきカリキュラムを編成している。教職課程の履修に関する事務は教務課が行うとともに、教職課程の改善・充実や質の向上のために設置されている教職課程委員会が教職課程の自己点検・評価を進めている。進めるにあたっては、学内の他組織との連携を図り、教職課程の自己点検評価は、全学的な自己点検・評価とは別にすることで整理された。

施設・設備の充実と活用については、令和の日本型学校教員を担う汎用的技術を習得するため、授業において ICT の活用を増進する取り組む必要がある。また、基本的な知識や発表力の習得を目指す「基本演習」は、他の科目の行事や実習時期との関連性なども考慮しながら、授業内容をより学生の実態にあったものにしていく必要がある。今日の学校教育を取り巻く環境の激しい変化に対応し、「令和の日本型学校教育」を担うにふさわしい教員の養成のため教職課程の改善・充実に取り組んでいるが、今後もさらなる質の向上を図っていく。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教職課程自己点検・評価について、令和3年度の教授会において3回説明し、学内の周知に努めてきた。令和4年度は、学内の自己点検・評価委員会に本学の自己点検・評価と教職課程自己点検・評価との関連や教職課程自己点検・評価の進め方について確認し、「令和4年度教職課程自己点検・評価報告書」（以下、報告書という）は教職課程委員会において作成を進め、学内の自己点検・評価委員会に対しては、完成した報告書を提出することとなった。

教職課程委員会においては、教職課程自己点検・評価と報告書の作成について具体的な作成スケジュールや作成方法・内容等について検討した。報告書は、短期大学部は大学とは別に単独で作成した。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人札幌国際大学				
大学・学部名 札幌国際大学短期大学部				
学科・コース名 幼児教育保育学科				
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等				
①	昨年度卒業生数		幼児教育保育学科	77名
②	①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)		幼児教育保育学科	62名
③	①のうち、進学・留学者等の数		幼児教育保育学科	15名
④	①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)		幼児教育保育学科	63名
⑤	②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)		幼児教育保育学科	54名
	④のうち、正規採用者数		幼児教育保育学科	48名
	④のうち、臨時的任用者数		幼児教育保育学科	6名
2 教員組織				
	教授	准教授	講師	助教
教員数	幼児教育保育学科 6名	幼児教育保育学科 6名	幼児教育保育学科 0名	幼児教育保育学科 1名